



P.2からの続き

達していることなどを話してくれました。そして、先生が会社を訪問したとき、お茶をいれてくれた高齢の女性が、50年前に初めて採用した障がい者の女の子であることを聞いて、不覚にも涙がこぼれた、と話されました。それを聞いて、会場の後ろからすすり泣く声が聞こえたんですね。後ろを振り向くと涙をぬぐっている人もいます。30代～50代の黒やグレーの背広を着たおじさんたちですよ。私も目頭が熱くなりましたが、これ、すごいなと。その時に坂本先生が結びの言葉として話されたのが「私はこの会社こそ、いちばん大切にしたい会社だと思っています」というものでした。それを聞いて、パッと「日本でいちばん大切にしたい会社」というタイトルが浮かんだのです。

本の力と可能性を信じて

織田 『日本でいちばん大切にしたい会社』シリーズは、出版不況の中にありながら、累計70万部ということですね。会社がいちばん大切にすべきなのは社員とその家族であるという主張、そして立場の弱い人々を大事にする企業の実話が共感を呼んでいます。

佐藤 坂本先生はフィールドワークで7千社くらい企業を訪問なさっているんですけど、「日本理化学工業のような会社ももっとたくさんあるんだよ」「そうなんですか!」ということで、シリーズ化を決めました。中小企業もいろいろあります。竹刀を持って社員を鼓舞するために机をたいて回る経営者。札束をどんとテーブルに置いて、「一番売ったやつには100万円だ!」とお金で人を動かそうとする経営者。実に多種多様です。それが中小企業の社長さんの面白さでもあるし、そういうのを見て、中小企業の経営ってなんだろうって思います。たいていの社長は、最初は社員のことはあまり考えていない。ただ、やっといくうちにだんだんこれじゃいけないってこ

とになる。もちろんみんなお金を稼ぎたい、成功したいとは思っているんですけど、その一方で人のためになりたいという気持ちもあるんですよ。人に感謝されたい。子どもにもかみさんにも親にも、もっと言えば地域にも社会からも感謝されたい。憎まれたくないですよ、誰も。やはり人に感謝されて、いい人だね、いい会社だねって思われたらいい気持ちは100%持っているんです。けれど、うまくできない。ペンツに乗りたくて、かい家に住みたいって始めたかもしれないけど、それが叶ったかどうかの?と。うちの会社はとにかくビジネス書出版社10位内に入りたいと思って始めましたけど、もうちょっとで届くんですよ。なってしまったらどうするの?目的の喪失じゃないですか。でも、人を大切にするとか、人に感謝されるというのは、どこまで行っても見果てぬ夢、目標です。中小企業で商売するとは、どういうことなのかと思った時、お客様に喜ばれるのもあるんですけど、もっともっと広く、いろんな人に感謝される会社になりたいという思いはみんな持っている。だから、この本は売れたのだと思います。

織田 本を出版してよかったと思うのはどんな時ですか?

佐藤 読者の方から、この本を読んで変わりましたという声、特に、『日本でいちばん大切にしたい会社』ではたくさんいただきました。私の会社も起業して25年。再スタート元年にしようということで、社員みんなで credo (経営理念) を作りました。そのひとつに、「私たちあさ出版は、書籍の持つ無限の力と可能性を信じて、より良い明日をむかえたいと願う人の夢をかなえるお手伝いをします」というのがあります。書籍の持つ力は大きい。本を読んで坂本先生の大学に入ったという人もいますし、こういう会社を作りたいという学生さんからメールをいただいたりする。社会起業家というのではなく、普通の会社を作って、どういふ会社にしたいかを考える人たちが増えたのは素晴らしいことだと思っています。やはり当社発行の『新幹線お掃除の天使たち』(遠藤功・著)の読者からは、「掃除をしている自分に自信が持てました」「これまで恥ずかしかったけど、堂々と自分の仕事に誇りを持って働けます」という声をいただいた。そういう人たちがたくさん増えてくるのは、我々の喜びです。また他の本では、「ギリギリのところから立ち直ることができました」とか。我々は本の力を信じて、人が変わった人、人生に何かを得たり、その手助けやきっかけをつくることのできる。そこはやりがいのあるところだと思います。そして、社員たちが自慢できるような本、いい本を出していますって言われるような本をずっと出し続けていきたいなと思います。

織田 社員も読者も大切にできるような本を作っていくということですね。

佐藤 読んだ人同士がつながるってこともあるんですよ。本を読む人が個で本と向き合っているのではなくて、横でつながっている。ネットのおかげなんですね、きっと。すごく面白い世の中だと思ってます。

個性を発揮し、役割を果たす仕組みを

織田 実際、私もこの本を手にしていなかったら、佐藤社長と会うことはなかったと思います。本に出ている会社はみんな素晴らしいので、甲乙つけがたいと思いますが、特に印象深い会社、人物というと?

佐藤 本当にまちまちですね。伊那食品工業㈱の塚越寛会長は、中小企業経営の天才だと思います。人を大切にしながら、増収増益を維持しているというのは、会社の経営システムも素晴らしいです。未来工業㈱の創業者、故山田昭男相談役と塚越会長は中小企業経営者としては断トツなんだろうなと思います。経営者は、理念と情熱だけでは社員を幸せにすることはできません。やはりマネジメントスキルがないと、社会的責任は果たせないし、社員を幸せにもできない。その点ではお二人とも、非常にしっかりとしたマネジメントスキルを持っていると思います。

織田 未来工業の山田相談役は、マネジメントスキルで、具体的にどんな点がすごいのですか?

佐藤 非常に評価はさっしりしているし、社員のモチベーションを決して落とさないような工夫は随所に見られます。提案するとどんな提案でもOKみたいな手法は、無駄なように決して無駄ではない。多くの経営者は、「無駄なように見えるけど大事なことをやらないから、なかなかうまくいかないのではないかと思います。非常にむずかしいことです。

織田 それを見極める目ってセンスなんですか?私はそういうものがないので、十何年間も赤字を続けてきて、やっと黒字になったところでですけど、センスを磨く方法はあるのでしょうか?

佐藤 みんな真似から始まりますから。オリジナリティのある人はそうじゃないので、誰を真似すればいいかという選択はその人のパーソナリティだと思うんですよ。山田相談役の真似、塚越会長の真似はなかなかできないかもしれないですけど、どちらを真似するかってあると思います。自分の性格やタイプに合った立派な人や経営の模倣から入って構わない。これは素晴らしいと思うことはどんどん真似して、あとは自分なりの理念をそこに入れ込んでいくのが大事だと思います。

織田 やりながら、自分のスキルやパーソナリティに合ったところを真似していくのが、たぶんいいんでしょうね。私は未来工業を真似したいと思って、実際に訪問して、山田相談役に話を聞いた時に、これはできるって思いこんでしまったものですから、そこを目指したいと思っています。お金の計算とか、これは採算が合う、合わないという計算高さとか、見る目がすごいなと感じます。『日本でいちばん大切にしたい会社』で、人を大切にすることでこんな経営ができたということについて、どう考えていらっしゃるでしょうか?

佐藤 人を大切にしようが、言うまでもなく人は一生懸命働きますよね。成長してくれると思います。うちの社員が佐々木常夫さん(前・東レ研究所社長)の奥様から、「あなたは本

当にいい会社に入りましたね。佐藤さんの会社でのびのびと伸びていけると思いますが」というメールをいただいて、私もたいへんうれしく感じました。そう言っていたら会社であれば、社員も自信を持てるし、この会社でやろうという気持ちになってくれると思うんです。そう思ってもらうことがまず第一歩で、あとは仕組みが必要なんだと思います。お前の代わりはいくらでもいるよというスタンスをとっていると、社員も成長しないんじゃないですかね。人を大切にしているというのは必ずしも、みんなと平等ということではなくて、役割をちゃんと果たしてもらったことだと思うんです。経営者にはリーダーとしての役割があります。だからリーダーとしての強さを持っていないといけない。勉強もしなければいけない。それがないと社長失格。同じように、やるべきことをやらない社員もやはり社員失格だと思います。

織田 NPOも同じで「責任を負う」という代表者の覚悟がないと成り立たない。経営責任を負うのは代表や理事会などではないかと思えます。ボランティア活動をする人たちには社会の役に立っていると実感してほしい。ボランティア活動の背後には必ず社会問題があります。さまざまな社会問題はテレビや新聞などのフィルターを通して知るわけですが、ボランティア活動をすれば身近に感じ、気づきが生まれ、社会がよりよくなっていくことにつながっていくと思っています。中小企業同友会で多くの企業の方とお話して感じるのは、企業は利益追求はもちろんですが、地域の人にとって必要なもの、大切なものを提供することをすごく考えている。そして社員のため、社会のためにという意識が強い。NPOはもともとそこを持っていますが、もう少し経営的な考え方とか、自分たちの信念だけではなくて、多様性を認めていくところが必要だと思っています。それが、両者が近づいてくる方法ではないかと思えます。

佐藤社長、今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。本に紹介されたような人を大切にできる会社が増えることによって、日本社会そのものがよくなっていくことをめざす方向に動いていくのではないかと感じています。

Information

今年の総会では、多くのボランティアが活動を支えるボラみみらしく、「ボランティア」に焦点をあてた座談会を同時開催します。これからの社会を担う10代・20代の若者と一緒「これからのボランティア」を考えたいと思い、今回の座談会を企画しました。ぜひご参加ください。

「10代・20代と考えるこれからのボランティア」

日時: 11月29日(日) 15:00～16:30

場所: 愛知県スポーツ会館 大会議室

名古屋市北区名城1-3-35

参加費: 500円 学生は無料

